

## 大腸がん検診

平原内科・消化器科 院長  
平原 睦庸 先生

今回は大腸がん検診のお話です。大腸がん検診は便に含まれる微量な血液の有無を調べます。人間以外の血液には反応しません。このため検査前の食事制限は不要です。事故のない簡便で安全な検査です。それでは効果はどうでしょう。便潜血検査の診断力は大腸早期がん 41.5%、進行がんで 79.7%とあります。これを反対側からみると進行大腸がんで 20.3%、早期大腸がんでは 58.5%が診断できずに見落とされてしまいます。進行大腸がんなら 8 割は診断できますので健診としては優秀です。しかしながら早期がんでは 6 割は診断できないので、皆さん困ってしまいますよね。ではどんな場合に診断ができないのでしょうか。

まずは検査方法の問題です。便の取り方はスティックで便の長軸方向に表面をこすります。突き刺すのは駄目です。取った検体は提出まで涼しいところに保管して速やかに提出しましょう。車の中に数日保管も駄目です。それでも完全ではありません。なぜならいつもがんから血が出ているわけではないからです（特に早期がん）。病変の部位や大腸がんの場所も便潜血の診断力に影響します。

こんなことを書きましたが、私は便潜血を用いた大腸がん検診を皆さんに強くお勧めします。全員に受けてほしいです。少しでもがんの疑いがあれば大腸内視鏡検査も受けるとよいでしょう。大腸検査を受けて腸の中を見てみるとポリープの状態などでがんになりやすいかどうか判断できるときもあります。お腹の調子が悪い人や家族に大腸がんになった人がいる場合は一度受けてみるとよいと思います。

「大腸のカメラはつらいから嫌だ」「つらいから二度と受けたくない」。時にこう言われます。検査を楽に受けられるように工夫している医師もいます。皆さんぜひ受診して健康を保ちましょう。